

クリティカル・リーディングの 充実を目指した読解指導の実践

— 「読むこと」と「書くこと」の統合を図りながら —

横 谷 英 海¹

クリティカル・リーディングとは、テキスト全体から書き手の意向などを理解した上で、自分の考えを基にテキストを評価する主体的な読解活動である。本研究では、生徒をクリティカル・リーディングに導く指導法を工夫し検証することをねらいとした。具体的にはテキストに関しての自分の意見を英語で書かせる活動とテキストを批判的に読ませるための二度読みの活動を組み入れた段階的指導を行い、効果を検証した。

はじめに

外国語のリーディング指導の課題の一つに、テキスト読解の目的を語彙力の向上や文法項目の理解の確認といった言語学習に置くと、語彙や文法など言語そのものに生徒の関心が向かってしまい、書き手の伝えたいメッセージに向かわないことがある。

今回の研究では、生徒の関心を語彙や文法ばかりでなく、書き手のメッセージにも向けさせるリーディング指導として、テキストの内容と表現の価値を評価する読みであるクリティカル・リーディングに着目した。

研究の内容

1 研究の背景

(1) 文法・訳読中心の指導

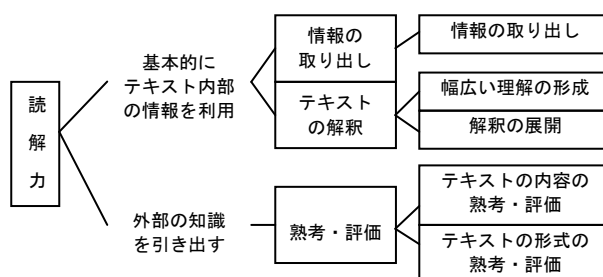
平成20年1月に出された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」（中央教育審議会）では、高等学校の「英語Ⅰ」で文法・訳読の指導が中心となっていること（文法訳読法）が課題の一つとされている。

文法訳読法は、限られた授業時間の中で語彙や文法といった言語知識の指導を効率よく行い、英文を母語に訳す練習を通じて言語知識の理解を確認していく指導法である。しかし、文法訳読法では語彙や文法を習得させることに指導の重点が置かれるために、生徒が語彙や統語などに注意を払いすぎてしまい、テキスト全体を理解することに到達しにくいという読解指導上の課題がある。さらに土田（2000）は、訳読中心の指導の弊害として、生徒のテキスト読解の目的が英文を日本語に置き換えることになってしまい、「日本語に直しにくい部分にはばかり目が行き、全体として何が書かれているかには注意が行かない」ことを挙げている。

高等学校学習指導要領における外国語の目標の一つである「情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う」ことを実現するには、テキスト全体から書き手のメッセージを的確に読み取らせることを中心とした指導を行う必要がある。

(2) PISA型「読解力」

OECDが「生徒の学習到達度調査」（PISA調査）で調査している「読解力」（PISA型「読解力」）とは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」（OECD 2003）である。PISA型「読解力」は「情報の取り出し」「テキストの解釈」「熟考・評価」の三つのプロセスに分けられ、さらに「テキストの解釈」と「熟考・評価」のプロセスにはそれぞれ二つの下位尺度がある。第1図はこれらのプロセスをその特徴で区別したもので、「情報の取り出し」「テキストの解釈」のプロセスの特徴が、基本的にテキスト内部の情報を利用することであるのに対して、「熟考・評価」のプロセスの特徴は外部の知識を引き出すことを示している。



第1図 PISA型「読解力」における読解のプロセス

（The PISA 2003 Assessment Framework (OECD 2003) を参考に作成）

PISA型「読解力」は、国際化や情報化といった変化の激しい現在の社会では特に必要とされる力であり、高等学校でもPISA型「読解力」の読解のプロセスを意識した指導を行い、生徒が実生活において書かれたテ

1 神奈川県立港南台高等学校
研究分野（外国語（英語））

キストを理解し、利用することにつながる必要がある。

文部科学省は平成17年に「読解力向上プログラム」を取りまとめ、その中で学校での取組における三つの重点目標の一つとして、「テキストを理解・評価しながら『読む力』を高める取組の充実」を挙げ、その手立てとして「自分の知識や経験と関連づけて建設的に批判したりするような読み（クリティカル・リーディング）を充実することが必要」としている。

2 研究のねらい

今回の研究では、テキスト全体から書き手のメッセージを的確に理解するコミュニケーション能力を養うことと、テキストを理解・評価しながら「読む力」を高める取組の充実を目指し、生徒をクリティカル・リーディングに導く指導の工夫を行う。

クリティカル・リーディングの実践を充実させるには、まだ数年間の学習経験しか持たない高校生の英語の習熟度を考慮する必要がある。したがって、本研究のねらいを次のように設定する。

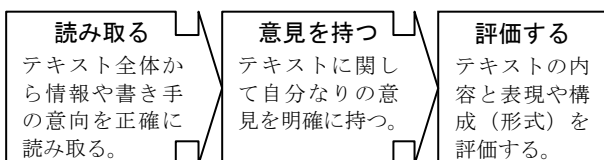
高校生の英語の習熟度を考慮して、クリティカル・リーディングのプロセスに従った活動の流れを設定し、各活動における段階的な指導法について研究し、授業を通してその指導の効果を検証する。

3 クリティカル・リーディングのプロセス

有元（2008）は、クリティカル・リーディングの一般的な定義として「テキスト（文章や図表）を読んで、正確に理解した上で、その文章の表現が本当に価値の高いものか、その物語の構成や終わり方は本当にそれでよいのか、作者の意見は本当に正しいのかなどと分析し、評価したり批判したりして課題を見つけること」と述べている。

また中野（2000）は、「読み手は文章全体をよく理解し、書き手の意向を尊重しながら、それに対して自分なりの意見を持ち、時として書き手と議論することさえ要求される」読みとしている。

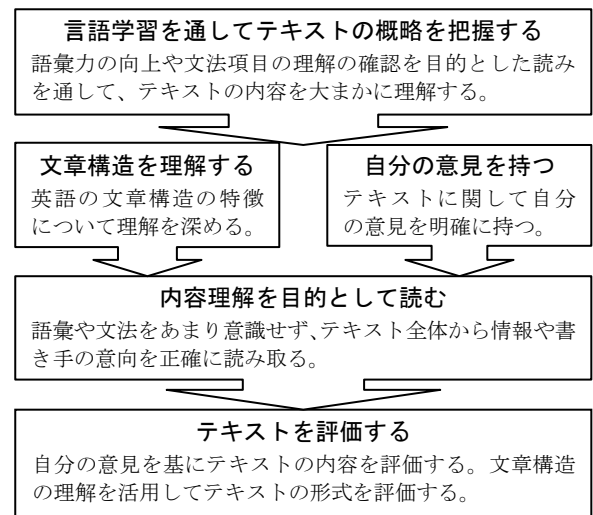
これらの定義に基づき設定したクリティカル・リーディングのプロセスを第2図に示す。



第2図 クリティカル・リーディングのプロセス

（有元・中野の定義を参考に作成）

第2図を基に、高校生の英語の習熟度を考慮し、英文テキストのクリティカル・リーディングを効果的に実践するための活動の流れを第3図のように設定する。



第3図 クリティカル・リーディングを実践する活動の流れ

この活動の流れについて説明する。まず生徒は、語彙や文法の学習を通して未知語や統語についての困難を解決し、テキストを大まかに理解する。続いて、テキストの内容をより正確に把握し、形式を評価する際に活用するために英語の文章構造の特徴を理解するとともに、テキストに関して自分の意見を明確に持つ。その上で、情報や書き手の意向を正確に理解するための読みを行い、テキストの内容と形式を評価する。

4 段階的指導の展開と工夫

第3図に示したクリティカル・リーディングを実践する活動の流れに沿って、次のような段階的指導を工夫して展開することが有効だと考えた。

(1) 言語学習を通してテキストの概略を把握する活動

ア 言語学習が中心の読解指導

生徒の英語の習熟度を考慮すれば、語彙や文法の指導を行うことで未知語や統語でのつまずきといった困難を解決することが有効である。さらに、生徒がテキストに関しての自分の意見を持つために、テキストの概略を把握させることが有効である。

(2) 文章構造を理解する活動

ア 英語の文章構造の理解を深めさせる指導

英語では、原則的に一つのパラグラフは一つの書き手の主張したいテーマ（トピック）について書かれる。パラグラフはトピックを簡潔にまとめた文であるトピック・センテンスで始まることが多い。トピック・センテンス以外の文（支持文）は、トピック・センテンスの内容を具体的に説明したり、根拠となる理由を述べたりする。

このようなパラグラフ構造の知識を活用することで、テキスト全体から書き手の主張の要点を把握したり、テキストの表現や構成を評価したりすることが容易になるので、英語のパラグラフ構造の理解を深めさせる指導が有効である。

(3) 自分の意見を持つ活動

ア テキストに関して自分の意見を書かせる指導

「書くことは考えることである」と言われるように、文字として実際に見ることで、自分の考えを深めることができる。したがって、テキストに関して自分の意見を書かせる指導が有効である。

大井（2008）は、論理的思考力を身に付けるには英語のパラグラフを書くことが有効であると述べている。クリティカル・リーディングを実践するには、テキストに関して論理的で明確な意見を持つことが大切であり、物事を論理的・分析的にとらえる英語のパラグラフ構造に則って自分の意見を書くことが有効である。

また、自分の意見を英語で書かせる際には、生徒の英語の習熟度を考慮して、次のような活動や指導の工夫が有効である。

- ①意見を書かせる前に、生徒の予備知識を引き出すために、テキストのキーワードとつながりのある言葉を思い付くだけ書くマッピング活動に取り組みさせる。
- ②簡潔で明瞭なトピック・センテンスを書かせるために予想されるものをいくつか例示して参考にさせる。
- ③適切な支持文を書かせるために、トピック・センテンスの内容について「なぜそう思うのか」「例えば何をするのか」などと自分自身に問いかけさせる。
- ④語彙や文法の知識不足を補うために、言語学習が中心の読みをした際に習得したテキストの語彙や文法事項を積極的に活用させる。

イ クラスメートとの意見交換の場の設定

自分の意見を書く際には、客観性や論理性の正しさを高めるために、読み手を意識しながら必要に応じて書き直すこと（校正）が大切であり、校正を重ねることで自分の意見をより一層明確にできる。

そして、校正にあたっては、クラスメートなど他者との意見交換を通じて、自分とは異なる視点や考え方を知ることが大切である。

(4) 内容理解を目的として読む活動

ア 内容理解を深めさせる二度目の読みの指導

高校生の英語の習熟度を考えれば、初めて読むテキストに未知の語彙や文法事項が複数存在することは少なくない。堀場・荒木（2002）は、語彙や統語のレベルの言語処理は、複数の文からの情報の統合といった認知処理よりも優先されるので、語彙や統語でつまずくと意味の統合や緻密化などの認知処理が十分に行われなくなると述べている。したがって、語彙や文法の学習を通して未知語や統語の困難を解決した後で、テキスト全体から情報や書き手の意向を正確に読み取ることに目的を絞って再読させる指導が有効である。

(5) テキストを評価する活動

PISA型「読解力」の「熟考・評価」のプロセスの特徴は、外部の知識を引き出すことである。外部の知識とは、世の中についての自身の知識やテキストに関する

背景知識、テキスト構造の知識などを指し、これらの知識を基にテキストから読み取った内容とテキストの形式（表現や構成）を評価させる指導が有効である。

ア 発問の工夫

十分な時間を与えて自由にテキストの内容や形式を評価させることは、クリティカル・リーディングの導入段階ではかえって困難を生じさせる。池野（2000）は、生徒は正答が常に存在する読解問題に慣れてしまっているため、回答の形式に自由度を与えすぎると戸惑ってしまうと述べている。

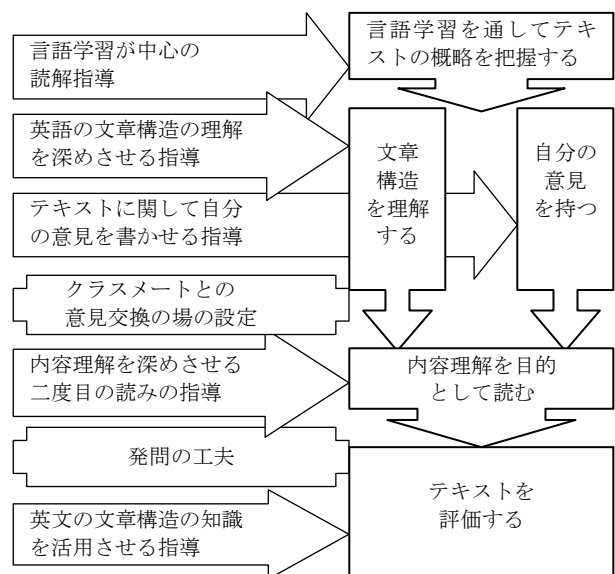
テキストの内容を評価させる際は「書き手の主張に賛成ですか、それとも反対ですか」など、二者択一の評価をさせた上で自分の評価の根拠を詳しく記述させるといった発問の工夫が大切である。また、テキストの形式を評価させる際も「テキストの表現は分かりやすいか」など、評価の観点を提示するといった発問の工夫が大切である。

イ 英語の文章構造の知識を活用させる指導

「一つのパラグラフにトピックは一つという原則」や「トピック・センテンスと支持文の関係」といった英語のパラグラフ構造に関する知識に照らし合わせて、テキストの形式を評価させる指導が有効である。

(6) 段階的指導の構想図

クリティカル・リーディングを実践する活動の流れに沿った段階的な指導の展開と工夫を構想図に表したものが次の第4図である。



第4図 段階的指導の構想図

5 検証授業

所属校において、第2学年の生徒を対象に「英語Ⅱ」の授業で、第4図に示した段階的な指導を取り入れた実践を行った。今回の検証授業はクリティカル・リーディングの導入の段階として行うことを踏まえ、次のように目標を設定した。

<p>検証授業の目標</p> <p>①テキストから書き手の主張を正確に読み取り、テキストに関して自分の意見を持つことができる。</p> <p>②自分の意見や英語の文章構造の知識に照らし合わせてテキストの内容と形式を評価できる。</p>

続いて、単元のテキストの内容を第1表に示し、段階的な指導を取り入れた単元の展開案を第2表に示す。

第1表 検証授業で扱った単元

教科書	POWWOW ENGLISH COURSE II (文英堂書店)
単元名	Is the death of languages a thing to care about?
単元のテキストの内容	
世界各地でおよそ500もの言語がまもなく消滅してしまう現状と言語の保護活動や再生への取組などが述べられ、消滅の危機にある言語にどう向き合っていくべきか考えさせる。	

第2表 段階的指導を取り入れた単元の展開案

第1時～第5時
<p>言語学習が中心の読解指導</p> <p>語彙力の向上や文法項目の理解の確認を目的とした読みを通し、テキストの概略を理解させる。</p>
第6時
<p>英語の文章構造の理解を深めさせる指導</p> <p>①トピック・センテンスや支持文などパラグラフ構造の知識を身に付けさせる。</p> <p>②テキストを完成させる活動を通じて、パラグラフの原則や特徴、つなぎ言葉の効果を理解させる。</p>
第7時
<p>テキストに関して自分の意見を書かせる指導</p> <p>①「もし、あなたが日本語を話す最後の話者になってしまったらどうしますか」というテーマで自分の意見を英語の文章構造で書く課題を与える。</p> <p>②「日本語」をキーワードに、マッピングの活動をさせる。</p> <p>③簡潔で明瞭なトピック・センテンスを書かせる。</p> <p>④自分の主張に関して、具体例や理由を説明するための支持文を3文程度書かせる。</p> <p>⑤読み手を意識させて内容や表現を見直させる。</p>
第8時
<p>クラスメートとの意見交換の場の設定</p> <p>①第7時に書いたことを基に、クラスメートと英語で意見交換するペアワークの活動を行う。相手の意見を聞いて理解し、コメントを述べる。</p> <p>②自分の意見を書いたものをクラスメートと交換し、お互いの意見について批判的に読ませ、内容と形式を評価させる。</p> <p>③クラスメートの意見や、自分の意見に対するクラスメートの評価を踏まえて、自分の意見をもう一度見直して、清書させる。</p>

第9時
<p>内容理解を深めさせる二度目の読みの指導</p> <p>①文章構造の知識を活用させて、パラグラフごとにトピック・センテンスを把握させる。</p> <p>②トピック・センテンスだけを読むことによって、テキスト全体から書き手の主張の展開を正確にとらえさせ、内容理解を深めさせる。</p> <p>発問の工夫</p> <p>①書き手の主張を正確に理解できたか確認するための発問を行う。</p> <p>②登場人物の行動や書き手の主張に対しての賛否を問い、自分の立場をはっきりさせる。</p> <p>③自分の賛否の根拠について、自由に記述させる。</p> <p>④書き手の主張の分かりやすさという観点からテキストの表現や構成(形式)を評価させる。</p> <p>英語の文章構造の知識を活用させる指導</p> <p>トピック・センテンスは明確か、パラグラフの内容に一貫性があるかなど、パラグラフ構造を意識させて、テキストの形式を評価させる。</p>

研究のまとめ

1 検証授業の結果

生徒が自分の意見を書いたものとテキストを評価したものを基に、生徒の実践結果をまとめた。ただし、提出物に不備の無かった94名が対象である。

(1) 読み取るプロセス

94名中94名(100%)の生徒が「人々は言語の消滅を懸念すべきである」という書き手の主張をテキストから正確に読み取ることができた。

(2) 意見を持つプロセス

94名中94名(100%)の生徒が、テキストの登場人物と同じ立場になったら言語の消滅に対してどう行動するのかを、具体例や根拠を挙げながら英語のパラグラフで表すことができた。

(3) 評価するプロセス

ア テキストの内容の評価

94名中82名(87%)の生徒が、言語の消滅に関しての自分の意見に照らし合わせて、登場人物の行動と書き手の主張を評価できた。

例えば、「自分が母語である日本語を話す最後の一人になったとしたら、日本文化の象徴である日本語を大切に残そうと努力する」という意見を書いた生徒は、「言語の消滅は文化の消滅を意味するので、回避したほうがよい」との根拠を述べた上で、「人々は言語の消滅を懸念すべきである」という書き手の主張を肯定的に評価した。一方で、「言語の消滅は仕方のないことなので、日本語を話す最後の一人になっても特に何もしない」という意見を書いた生徒は、「大事なのは相手とコミュニケーションをとることなので、話す人

がない言語を残しても仕方がない」との根拠を述べ、書き手の主張を否定的に評価した。

イ テキストの形式の評価

94名中76名（81%）の生徒が、英語の文章構造の知識に照らし合わせて、テキストの形式を評価できた。

例えば、「トピック・センテンスが発見しやすかったので、内容が理解しやすかった」とテキストの表現や構成の分かりやすさを評価した。

(4) 結果のまとめ

今回のクリティカル・リーディングの導入段階における授業実践の結果を次のようにまとめる。

高校生の英語の習熟度を考慮し、設定したクリティカル・リーディングを実践する活動の流れに沿った段階的な指導を行った結果、

- ①テキストから書き手の主張を正確に読み取り、テキストに関して自分の意見を持つことはすべての生徒が実践できた。
- ②自分の意見や文章構造に関する知識に照らし合わせてテキストの内容と形式を評価することは8割以上の生徒が実践できた。

2 考察

上記の検証結果を踏まえて、今回行った段階的な指導の展開と工夫について、設定したクリティカル・リーディングを実践する活動の流れごとに考察する。

(1) 言語学習を通してテキストの概略を把握する活動

ア 言語学習が中心の読解指導

授業中の観察では、二度目の読みを行う前の時点でテキスト全体から情報や考えを的確に読み取れていた生徒は少なかった。やはり言語学習に目的を置いた読解指導だけでは、生徒にテキスト全体が伝える内容や書き手の論理展開を把握させることは難しく、テキスト全体から書き手のメッセージを読み取ることに目的を置いた読解指導の必要性が確認できた。

(2) 文章構造を理解する活動

ア 英語の文章構造の理解を深めさせる指導

今回、生徒の身近なことに関する簡単な英文をいくつか提示し、それらを取捨選択し並べ替えてパラグラフを完成させる活動を行ったところ、多くの生徒がパラグラフの構造や特徴の知識を短時間で身に付けた。

生徒が検証授業の最後に提出した振り返りのワークシートに、「文章の構造を意識しながら読むことで、全体として筆者の伝えたいことが理解しやすいことが分かった」「トピック・センテンスはどれなのかをまず理解することで、文章の内容が分かりやすくなってよかった」などの記述が見られた。英語の文章構造の理解を深めることで、パラグラフごとのトピック・センテンスを把握することができ、テキスト全体から書き手の主張や感情を正確に読み取ることに繋がった。

また、クリティカル・リーディングの導入段階では、

パラグラフ構造を把握しやすいテキストを選ぶ必要があるが、パラグラフ構造に関しての指導は一度導入すれば次回からは簡略化することができる。さらに、パラグラフ構造の理解を深めさせることは「高等学校学習指導要領解説」（文部科学省 1999）で述べられているように、「英語という言語のもつ発想法の土台の部分に慣れることを含めて、総合的な英語運用能力の基礎を培う」ことにもつながる。

(3) 自分の意見を持つ活動

ア テキストに関して自分の意見を書かせる指導

テキストの内容理解を深めさせる指導として、登場人物の行動や筆者の意見についてどう思うか答えさせる取組は、これまでも頻繁に行なわれている。

今回の活動では、生徒は単に自分の意見を発言するのではなく、論理的で分析的な英語のパラグラフ構造で自分の意見を書き、クラスメートとの意見交換を通じて必要に応じて内容や表現を書き直すことで、自分の意見をより一層明確化し深められ、その結果として、根拠を明らかにしてテキストを評価する読みを実践できた。また、パラグラフを書くことで、英語の文章構造の理解も深められた。

自分の意見を「書くこと」によって考える力を引き出し、その意見を基にテキストの内容を評価しながら深く「読むこと」ができたと思われる。「読解力向上プログラム」（文部科学省 2005）で述べられている「一方でテキストを読んで理解することによって得られた知識等について、実生活や行動と関連付けて書く力を高めるとともに、他方で書いたものをさらに深めることを通じて読む力を高めることが期待される」ことを実証できた。

イ クラスメートとの意見交換の場の設定

自分の意見を書く際にクラスメートという読み手を意識させることは、コミュニケーション能力を養う上で大切である。授業中の観察では、クラスメートの意見や考え方を参考に自分の意見を検討し直す生徒が多く見られるなど、積極的に自分の意見を客観的に見つめ直すことができていた。生徒の振り返りのワークシートにも「自分だけでは一つの視点からしか考え付かなかったが、意見交換によって様々な視点から考えることができ新しい発見ができた」との記述があった。

(4) 内容理解を目的として読む活動

ア 内容理解を深めさせる二度目の読みの指導

生徒にとっての未知語や文法上の困難が比較的少ないテキストであれば、初見の英文テキストであっても、二度読みせずにクリティカル・リーディングを実践できる。しかし、同じテキストをあえて二度読ませたことで、言語学習に目的を置いた訳読中心の読みと、テキスト全体から書き手のメッセージを適切に読み取ることに目的を置いた読みを比較でき、自身の読みの深まりを実感させることに繋がったと思われる。生徒

の振り返りのワークシートにも「今までは教科書のテキストを深く読んでいなかったことに気が付いた」や「訳や文法を優先してしまいがちだったことに気が付いた」などの記述が見られた。

(5) テキストを評価する活動

ア 発問の工夫

登場人物の行動と書き手の主張に対して、賛成か反対の二者択一の評価をさせたことで、自分の立場を明らかにすることができ、賛否の根拠として自分の考えを述べられることにつながったと思われる。

また、テキストの形式を評価させる際にも、書き手の主張は読み取りやすいかという評価の観点を与え、さらに、テキストの表現やパラグラフの構造は分かりやすいか、パラグラフのトピックに一貫性はあるかといった具体的な視点を与えて発問をしたことが、英語の文章構造の知識を活用することにつながった。

イ 英語の文章構造の知識を活用させる指導

振り返りのワークシートに「読者に伝わりやすくするために色々工夫していることが分かった」との記述があり、テキストの内容だけでなく表現や構成も意識した読みの実践ができたと思われる。

また、自分の意見を英語の文章構造で書いた際の経験に照らし合わせて、「つなぎ言葉でうまく主張を展開していた」「数多く具体例が挙がっていて分かりやすい」などとテキストの表現や構成を評価していた。

3 今後に向けて

テキストの内容を評価する際に、自分の意見に照らし合わせず、テキストに書かれていることだけを基に評価した生徒が12名(13%)いた。また、テキストの表現や構成にまで意識を向けられず、テキストの形式を評価できなかった生徒も18名(19%)いた。自分の意見を自由記述で答える形式の読解問題にもっと取り組ませたり、英語の文章構造を意識した読解指導を継続したりする必要がある。

今回はクリティカル・リーディングの導入段階の指導であったが、生徒の意識を書き手の意向やテキストの表現・構成に向けさせることができた。今後も自分の意見を書くことで考える力を引き出し、読む力と書く力を総合的に高めていく指導を継続する必要がある。

おわりに

振り返りのワークシートに「筆者の立場になって読んだり、構造を意識しながら読んだりすると、より楽しく読むことができる」「筆者の考えを理解しながら読むとその本文に興味はわく」との記述があった。これらの記述からクリティカル・リーディングの指導を実践していく意義を次のように読み取ることができる。

まず、「楽しく読む」や「本文に興味はわく」など

と、生徒の英文テキストを読むことに対する意欲や関心が高まることである。語彙や文法の説明を聞き、ノートに訳を写すといった受動的な読解では、このような意欲や関心の高まりは望めない。

次に、「筆者の立場になって」「筆者の考えを理解しながら」と、テキストの向こう側の書き手を意識した読みを実感できることである。「高等学校学習指導要領案」(文部科学省 2008)の外国語の目標の一つ「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」ためには、書き手を意識したテキスト読解の姿勢を身に付けさせることが大切である。今回の段階的な指導を計画的、継続的に行うことで、生徒のコミュニケーション能力をより一層はぐくむことができると考える。

引用文献

- 文部科学省 1999 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』開隆堂出版 p. 47
- 文部科学省 2008 「高等学校学習指導要領案」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/news/081223/002.pdf (2009. 1. 19取得)) p. 88
- 文部科学省 2005 「読解力向上プログラム」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku/siryu/05122201/014/005.htm (2009. 1. 8取得))
- OECD 2003 *The PISA 2003 Assessment Framework* (<http://www.pisa.oecd.org./dataoecd/46/14/33694881.pdf> (2009. 1. 8取得)) p. 108
- 有元秀文 2008 「どうすればPISA型読解力を向上させられるか?」(<http://www.nier.go.jp/arimoto/PISA/PISAThesis/wakayama08March.pdf> (2009. 1. 8取得)) p. 3
- 土田正人 2000 「書き手と読み手の対話を意識した指導」(高梨庸雄・卯城祐司『英語リーディング事典』研究社出版) p. 229
- 中野幸子 2000 「クリティカル・リーディング」(高梨庸雄・卯城祐司『英語リーディング事典』研究社出版) p. 240

参考文献

- 中央教育審議会答申 2008 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/news/20080117.pdf (2009. 1. 8取得))
- 池野修 2000 「読解発問」(高梨庸雄・卯城祐司『英語リーディング事典』研究社出版)
- 大井恭子 2008 『パラグラフ・ライティング指導入門』大修館書店
- 堀場裕紀江・荒木和美 2002 「言語習熟度」(津田塾大学言語文化研究所読解研究グループ『英文読解のプロセスと指導』大修館書店)